



① 鶴之荘住宅地のパンフレット。「完全の住宅地」といったキャッチフレーズが並ぶ②小戸に建築中の旧平賀家住宅。平賀博士の欧米を外遊した経験が建築意匠に反映された③現在の旧平賀家住宅。実験研究棟や東屋なども移築された ※郷土館（下財町4-1）へのアクセスは能勢電鉄「山下」駅から徒歩10分。詳しくは社会教育・文化財課 ☎(740)1244 へ

大正初期の川西能勢口周辺の発展

川西で最初の住宅開発

鉄道の整備とともに進んだ宅地開発
土地の名士や大阪の財界人により高級住宅地が形成

鶴之荘住宅地と花屋敷住宅地の開発

大正の初めごろ、現在の阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅周辺は人家もまばらで、田んぼに囲まれていました。そんな中開発が進んだのが、小戸にある鶴之荘住宅地と花屋敷にある花屋敷住宅地です。

阪急電鉄の前身となる箕面有馬電気軌道と、能勢電鉄の前身となる能勢電気軌道の能勢口停留所（現在の「川西能勢口」駅）が開設された大正3年。池田の北田栄太郎という人物によって、鶴之荘住宅地が開発されました。これが、今日の川西を象徴する住宅団地の最初のものといえます。

この地が選ばれた理由は、駅ができたことで大阪といった都会へのアクセスが容易になったため。さらに、都会に比べて空気が清く、湧き出る水も豊かで、眺望も良かったからです。当時作られたこの住宅地のパンフレットにも、そのように記されています。

当時の住宅の建て売り価格は3,000円以上。画期的なロー

郷土館にある旧平賀家住宅は、阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅近くの小戸から移築されたものです。この洋館が建てられた大正初期、同駅周辺で市内最初の住宅開発が進みました。なぜ、この時代に住宅開発が始まったのでしょうか。

ン販売も実施していたようです。土地の名士や大阪の財界人の居住が多く、高級住宅地が形成されました。

それに続いて、花屋敷住宅地は大正6年に開発。これは、大阪の大島実太郎という人物が花屋敷土地株式会社を設立し、箕面有馬電気軌道の花屋敷停留所近くの山林を住宅地に造成したことに始まります。

隣接地には雲雀丘住宅地（宝塚市）が造成され、ともに高級住宅地として発展しました。

郷土館に残る大正時代の面影

住宅団地開発と同時期の大正8年に建てられた旧平賀家住宅は、平成2年に郷土館へ移築され、復元されました。

大正時代の面影が今もなお残る、旧平賀家住宅。建築修理を終え、昨年11月から公開を再開しています。

同時期に建てられた、数寄屋風造りの旧平安家住宅も保存されています。皆さんも、郷土館で大正の雰囲気を感じてみてはいかがでしょうか。

CHECK & QUIZ

次の空欄（○の中）を埋めてください。

1：特集 今、私た○にできること 2：キセラ川西○ラザ

クイズ正解者の中から図書カード（1,000円分）を5人に差し上げます（正解者多数の場合は抽選。当選者のみに送付します）。応募方法：ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、興味があった記事と感想を書き、1月10日（水）（消印有効）までに〒666-8501・かわにし魅力推進室「クイズ」係へ。

※12月号の正解は（い）（マ）で、53通の応募がありました。

11月末現在の人口



男……………75,363人（-51）
女……………83,604人（-12）
計……………158,967人（-63）
世帯数…69,577世帯（+6）

川西の元気いっぱいキャラクター きんたくん



今年もよろしくね